



# 第60回農林水産祭

農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくとともに、農林水産業者の皆さんに技術改善及び経営発展の意欲を高めていただくため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催して、昭和37年から実施しているもので、今年で60回目となります。

農林水産祭では、農林水産業の発展に寄与したとして、過去1年間に開催された農林水産祭に参加の表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された方々の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞を選考し、表彰を行っています。

今回、林産部門では53件を対象に書類審査、現地調査を行い、天皇杯に山長林業株式会社・株式会社山長商店（和歌山県田辺市）、内閣総理大臣賞に大森茂男氏（岩手県二戸市）、日本農林漁業振興会会長賞に杉本英夫氏・淑美氏（夫婦での受賞）（福井県福井市）が選出されました。

## 天皇杯

山長林業株式会社・株式会社山長商店（和歌山県田辺市）

### 高品質な紀州無垢材の持続的な 一貫供給体制を築き上げた100年企業

山長林業株式会社・株式会社山長商店は、江戸～大正時代にかけて木炭問屋として林業を営んできましたが、戦後は大規模な拡大造林を行うとともに製材業に着手しました。平成に入ると、木造建築の工法の変化に即してプレカット工場を新設し、更なる事業拡大を図った結果、良質な紀州無垢材の生産を行う従業員100名規模の企業へ成長を遂げました。

山長林業株式会社は、約6千haの経営林を核として、周辺の小規模な森林所有者と共同による森林経営計画の樹立を推進することで、地域の山林を集約管理し、長年積み重ねてきた育林技術を用いて通直完満な良質材を生産する体制を構築しています。また、代表の榎本長治氏は「架線集材の低コスト化・省力化技術検討会」を立ち上げ、集材の無線化や自動化にも繋がる油圧式集材機の開発に取り組み、架線集材の発展に貢献しました。

さらに、株式会社山長商店は、伐り出された良質材から柱材や横架材を生産し、寸法安定性や強度などJAS規格よりも厳しい自社基準を通過した高品質プレカット無垢製材品を首都圏の工務店に直接供給することで、建築用材の高付加価値化を実現しました。また、令和3年には、B材や虫害材を活用する新工場を稼働させ、地域材の有効利用に大きく貢献しています。

これらの森づくりから家づくりまでを一気通貫で行い、山元の収益向上を図る経営手法は、全国各地から年間約50組もの林業関係者や工務店が視察に訪れる理想の経営モデルとなっています。



社員集合写真



社有林の林内風景

## 内閣総理大臣賞

大森 茂男氏（岩手県二戸市）

積雪寒冷地域の再造林を支えるために独自技術で発展し続ける苗木生産

平成11年度第38回農林水産祭で日本農林漁業振興会会長賞を受賞した大森茂男氏は、受賞後も新設備やコンテナ苗生産の導入に取り組み生産規模を更に拡大した結果、岩手県の苗木供給の半分程度を占める県内最大の苗木生産者へと発展を遂げました。

造林者のニーズに応じるため、苗を保冷し出荷時期を調整、気候条件等を考慮した育苗の管理、施肥を適正に管理した耐寒性苗の生産のほか、コンテナ苗の生産施設や保冷库の導入、コンテナ苗の雪中置きによる育苗作業期間の拡大など、独自のアイデアで様々な技術開発に取り組み、それらの技術を全国各地の苗木生産者や研究機関に普及する取組も行っています。

また、高齢女性や障害者を積極的に雇用するなど地域の活性化にも貢献しており、引き続き、再造林を下支えする活躍が期待されます。



大森氏が設計した苗木保冷库



大森茂男氏

## 日本農林漁業振興会会長賞

杉本 英夫氏・淑美氏（福井県福井市）

日本の伝統文化の継承のため夫婦二人三脚で取り組む複合的林業経営

杉本英夫氏は、高校卒業後福井県内で製造業に従事していましたが、淑美氏との結婚後、淑美氏の実家の家業である農林業を承継しました。スギ林の管理をはじめ、製炭、養蚕、しいたけ生産など多岐にわたる作業を夫婦二人三脚で実施しています。

木炭生産量は平成28年には県内1位となるまでに増加し、茶の湯に必要な美しい菊炭や、刀鍛冶に不可欠な松炭の生産に取り組むなど、日本の伝統文化の継承にも貢献しています。また、北陸唯一の養蚕農家として、日本の在来種「小石丸」を原種とする「玉小石」を飼育し、繭を県内の機織り職人に納入するなど、地域の需要に応じた品目の生産に取り組んでいます。

広葉樹林の資源調査ヘドローンの活用やバイオ炭の試験研究にも協力しており、今後も複合的林業経営の先駆者として更なる活躍が期待されます。



原木しいたけ栽培



杉本英夫氏・淑美氏